CONTENTS

page.1
園長コラム
「信楽学園は“古希”を迎えました」
園長　山之内 洋

page.2
北村信雄 元園長に
お話を伺いました
野外活動
コロナ禍の野外活動 2022
野外活動の歴史 ―― 今村 拓生

page.3
外部から見た信楽学園
―― 滋賀県社会福祉協議会　副局長
夏祭りと納涼祭
杉本 紗弓

page.4
フレッシュさんに質問してみた
森口 華帆・田中 亮祐
職員の宝もの ―― 岡村 智美
坂本 ゆかり
演劇発表会について
芝田 春香
編集後記 ―― 天羽 結香

NEWSLETTER FROM SHIGARAKI GAKUEN
TAKE FREE

園長コラム 「信楽学園は“古希”を迎えました」

信楽学園は今年で 70 年目“古希”を迎えました。
戦後の激動の昭和の時代から、人々の暮らしから社会の情勢が大きく変革した平成の時代、そして新しい令和の時代に渡り、児童たちの社会的自立を目指し、創設当初から変わらぬ理念と方針で、指導と支援を行ってきました。

今年はこれまでの実践の振り返りと今後の新たな信楽学園を検討する節目の年でもあります。現在信楽学園の職員たちから信楽学園の将来構想ワーキングとして 3 つのグループに分かれて、「これからの信楽学園の夢物語」をそれぞれに語り合ってもらっています。またどこかで紹介できればと思っています。

1959 年の「児童の権利宣言」以降、1989 年に国連で「子どもの権利条約」が採択され、翌 1990 年に国際条約として発効され、1994 年に日本でも批准されました。今年 6 月の通常国会では「こども基本法」が成立しました。「こども基本法」は憲法、子どもの権利条約で認められる子どもの権利を包括的に定め、国の基本方針を示すとされていることから、子どもたちの権利について、これからも様々な議論がされるのだろうなと思っています。

信楽学園でも改めて「子どもの権利」について、権利条約をはじめ、人が持つ基本的人権についての意識を高めながら、児童に対しての支援を考え、実践していきたいと考えています。「権利条約」で謳われている「命を守られ成長できること、子どもにとって最もよいこと、意見を表明し参加できること、差別のないこと」の基本原則にのっとり、【生きる権利】【育つ権利】【守られる権利】【参加する権利】を真剣に見つめ、日々の業務に当たっていこうと思います。信楽学園の将来構想も、当然ながら子どもたちの権利を柱に考えていきたいと思っています。

さて、信楽学園が 1952 年に創設されてからの 70 年間で創設者の池田太郎氏をはじめ 20 名の園長がこの要職に就かれてきました。先日、池田先生に次ぐ 2 番目の長期間園長をお勤めになられました北村信雄元園長に当時のエピソードなどのお話をお伺いしました。北村元園長と学園で一緒に仕事をされていた当法人の牛谷理事長もご一緒していただきました。

北村元園長は 1956 年に信楽学園へ児童指導員として入職され、その後近江学園での専門員を歴任され、1986 年に信楽学園の園長に就任されました。信楽学園を退職されてからは、老人ホームの所長や権利擁護センターでの相談員などもされ、同じ町内の社会福祉法人の理事長もお勤めになられました。

北村元園長のご自宅は、学園の第 1 工場の隣にあり、70 年近くの間、職員として、園長として、地域住民として、信楽学園や児童たちを見守ってこられました。

ご高齢でもあり、短時間でのインタビューでしたが、一つ一つゆっくりと言葉をかみしめながら、当時のエピソードをお話ししてくれました。学園創設当初の汽車土瓶を飾っている棚から、1961 年に海を渡り、アメリカのシアトルへ販売された汽車土瓶を手に取り「懐かしい」と呟かれた北村元園長は、とてもやさしく温かいまなざしをされていました。その汽車土瓶にお茶を入れ、お猪口に注ぎながら、元園長の声に耳を傾けながら、この時間はゆっくりと流れていきました。

北村元園長からお聞きした過去のエピソードは以前にお聞きしていた内容も含めて、次ページに掲載しておりますので、是非ともご覧ください。

【園長　山之内　洋】

北村信雄 元園長にお話を伺いました

エピソード
1

（創設翌年の西日本集中豪雨による）水害時には、トロッコ列車を押したり、また、もっこを担いで、田んぼにたまった土砂を運ぶ作業を子どもたちが行っていた。そのことは地域の人たちにとっても好都合で、このことが学園や子どもたちに対する理解を得る発端にもなった。

エピソード
2

池田先生は「販売の鬼やった」。当時の汽車土瓶は、焼成された段階で、業者が来園し、子どもらと一緒に取っ手をつけてから荷造りをしていた。当時は汽車土瓶の売り上げを職員の給料に充てていた。その後、職員の給料は県から支払われ、材料なども県費から支出され、さらに働き手の子どもらには給料は発生しないことから低コストで作られるために、民業圧迫するために、業者を通じて販売するという決まりが出来上がっていた。

エピソード
3

（現在神山地区で区と一緒に開催している）納涼盆踊り会は、もともとは学園の地蔵盆が始まり。スイカ屋さんやアメ屋さんをしていた。学園のある神山区北出町は地蔵がなく、地域の人たちは学園の地蔵を参っていた。

エピソード
4

日が経つにつれ、学園に学齢児が増えた。当時は施設内学級として、寝ている部屋が日中教室になった。信楽中学校に特殊学級ができるが、学園の子どもたちは本校に通えなかった。６年かけて通えるようになった。当時は障害程度でクラス分けをしていた。行政的には学園の子どもたちは町に税金を支払っていなかったので、本校に通うことに対してのクレームなどがあった。最初は障害の軽い子らが通っていたが、後に重い子らも通えるようになった。また、就学免除で学齢期には通えなかった子どもらが 18 歳になってから小学校に通い、飛び級として小学３年で中学校へ進学したりすることもあった。

池田太郎さんは、学園の子どもらに対しては、後期中等教育を強く望んだこともあり、中学を卒業してから学園へ入園する現在の形ができた。

エピソード
7

私（北村元園長）は相撲取りを目指していたが、池田太郎さんから強く学園での仕事を誘われ、職員となった。そのため、学園の子どもらとはよく一緒に相撲取りをした。当時は学園には立派な土俵があった。

エピソード
8

信楽学園を卒園したり、全国から信楽にやってきた成人期の人たちの施設として信楽青年寮が併設された。今の体育館の場所に青年寮が二棟建てられるが、建てられるまでは、全国から移ってきた人たちの部屋がなく、職員の自宅の空いている部屋に、学園では課題の少ない子どもらを住まわせた。一間１０００円で。これが民間下宿のスタート。後に生活ホーム（県単事業）、グループホームのモデルに。

エピソード
9

池田太郎さんはでんぐり返りをする程度しか芸がなかったが、神山進さん（２代目園長）が芸達者で、演劇などを盛んに行い、そこへ町の青年たちが集まり、一緒に演劇をしたり、作業場の２階を開放し、そこで昼夜２回上演した（昼は子どもや老人を対象に、夜は婦人や青年を対象に）。盛況で人がたくさん溢れて、２階の床が抜けそうだったため、下から柱を補強した。当時は春とクリスマスの年２回公演した。公演直前の３日間は、一日通し稽古で、火鉢を囲んで暖を取りながらやっていた。職員だけの劇も行い、「夕鶴」などを上演していた。昔の警察署の前に映画館兼芝居小屋があり、そこで公演をしていた。昭和 35 年ごろ、娯楽も何もない時代に、児童も職員も演劇発表を楽しみにしていた。

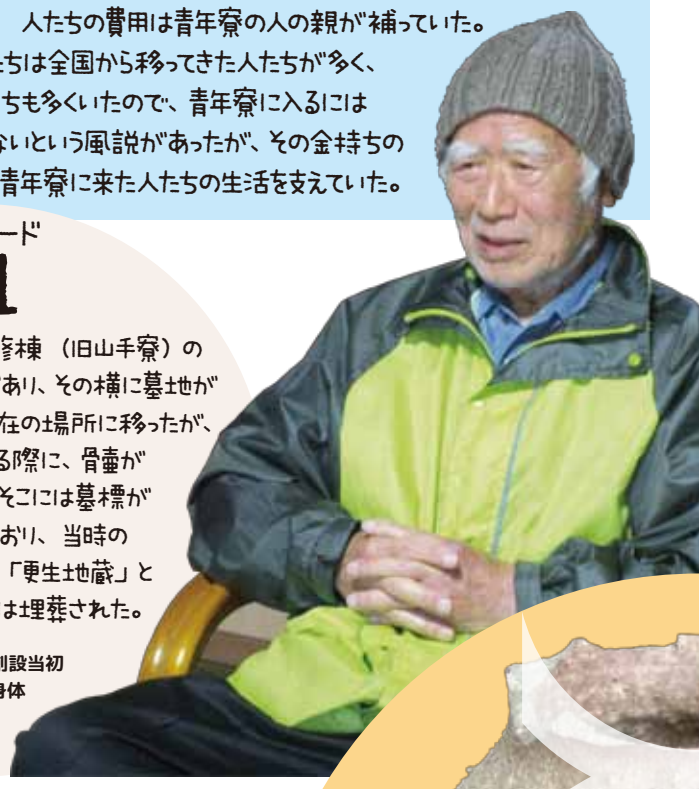
エピソード
10

学園に在籍していた子どもらの親の面会はほとんどなかった。２０歳までは在籍可能であったが、それでも学園に残っていた人たちの費用は青年寮の人の親が補っていた。青年寮の人たちは全国から移ってきた人たちが多く、その実家は金持ちも多くいたので、青年寮に入るには金持ちでないといけないという風説があったが、その金持ちの方々が県内から学園、青年寮に来た人たちの生活を支えていた。

エピソード
11

今は使われていない研修棟（旧山手寮）の辺りは、その前は法蔵寺があり、その横に墓地があった。法蔵寺は火災で現在の場所に移ったが、その墓地の後に女子寮を建てる際に、骨壷が出てきた（県の文化財）。またそこには墓標があり、それらを地蔵と呼んでおり、当時の服部滋賀県知事が名付け「更生地蔵」と呼ばれていた。他の骨は埋葬された。

＊更生地蔵の「更生」は、創設当初併設されていた「滋賀県身体障害者更生指導所」から。



野外活動

コロナ禍の野外活動 2022

2022 年 8 月 3 日、昨年度に引き続き今回も長野県霧ヶ峰車山を目指した。

ニュースでは“感染者数過去最多”が珍しく無くなり、ゴールデンウィークや３連休では制限が無く社会は動く状態になった。そのような中、学園でも実施に向けて準備を進めていった。何に気を付ける必要があるのか？「マスクでしょ、当り前じゃないですか！」と言って着用することが当たり前に出来る児童たちを見ていると安堵すら覚える。

今年度入園された１年目児童は６名、先輩の２年目児童５名の合計 11 名で練習から取り組んだ。普段と違うことを進めると真面目に取り組み、慣れが生じると緊張感が抜ける児童が多い。しかし、登山の実践練習となると、崖などの危険を感じ取り、集中が出来る。「この山キレイやな」「後、山頂までどれくらいなん？」と先を確認する児童もおり、登山の関心を高めることが出来た。その児童の様子を見ていると、“新鮮さ”がモチベーションに繋がっている事に気付かされた。本番前日に、当日使用する物品準備の際にも、衣類を気にしたり、不足がないか何度も確認をしたりなど、本番に向けた緊張感からそわそわする児童がいた。

1 泊２日の野外活動実施日も当然制限がある中、その制限を感じさせない形で皆が楽しんでくれた「夜のバーベキュー」や「２日目翌朝の登山」を見ていると本当にありがたい気持ちになった。また参加者全員が霧ヶ峰車山を登頂することが出来、無事に野外活動を終了することが出来た。

長野県からの帰園後も体調不良者が出ていない事が何よりもありがたい。もうしばらく、コロナとの付き合いが続くのが予想されるが、今後も学園内の行事等の安全配慮を行いながら進めていきたい。

【今村 拓生】

野外活動の歴史

今から 55 年前の昭和 42 年に、野外活動が開始されました。当時は、滋賀県の安曇川湖畔学舎にて２泊３日していたそうです。本格的な野外活動の開始は昭和 42 年でしたが、信楽学園開設して間もない年に海水浴に行っていたそうです。

エピソード
5

講演会などで講演を
された際に池田先生はギャラを
受け取っていた、ということから
「池田先生はケチ」 などと言われるようになったが、
実際に池田先生は職員の手当に充てたりしていて、
自分の懐に入れることはなかった。
また、池田太郎さんは県庁での辞令式など公式な場
に出る時でも、着ていく背広がなかったにもかかわらず、
自分のボーナスは職員に分け配っていた。
当時の職員の給料は工場の売り上げから払っていた。
「ビールを飲む会」 と称して、池田太郎さんが
声を出して、職員とダルマストーブを囲んで
よく宴会に興じた。 その際宴会の幹事は
その日の業務は免除された。

エピソード
6

池田先生は
子どもらから「アマガエル」 と呼ば
れていた。 理由はいつも学園の中を見て回って
いたためで、雨の日は山手から雨水が流れてくる
ので、特に見回りをしていたため「アマ
ガエル」 と呼ばれていた。 創設当初、
町の人たちに挨拶をして回った池田太郎さんを
見て、町の人は園生と
間違えたこともあった。

希を迎えました

外部から見た信楽学園

～ 滋賀県社会福祉協議会 副局長 ～

私が初めて「信楽学園」とかかわりを持ったのは、まだ甲賀市ではなく、信楽町だった頃に、福祉事務所でケースワーカーしていた時でした。その頃は、知的障害児が一般就労に向けて、職業訓練をする施設として、会議等でお邪魔していましたが、多くの児童が利用していたという印象が残っています。

それから、10 年ほど経って、今度は県立施設である信楽学園の担当者また係として、つい最近までかかわりを持たせてもらいました。

ケースワーカーをしていた頃と比べると状況は大きく異なり、児童福祉法の改正による契約入所制度の導入や高等養護学校が県内で整備が進められるなど、制度や環境の変化とともに、信楽学園でも指定管理者による施設運営や、入所児童数の減少など、学園の状況も変わっていました。

こうした状況に対応していくために、県立施設として信楽学園をどうしていくのがいいのか、関係機関の方や学園の職員さんと意見交換も何度かさせてもらう機会もあり、職員さんの学園に対する思い、熱意など、直接感じさせてもらうことができたいい経験でした。

また、老朽化が進んでいる施設なので様々な設備に不具合？故障？が発生することも多く、信楽学園から連絡があると「今度はどこの修繕ですか？」といったやりとりをしていた記憶が強く残っています。こういうことがあると、児童や職員さんに工夫をしてもらいながら過ごしてもらうことも多かったので、いろんな意味で苦労をおかけした、と感じています。

これ以外にも書ききれないほど、いろいろなことがありましたが、そのたびに学園まで足を運んで職員さんと話をし、どうしていこうといった相談を繰り返してきたので、私の中では一番よく足を運んだ施設と感じていますし、その分、親近感が強く、なんとなく行くと落ち着く施設でもありました。また、いろいろな出来事の中で、学園と地域の人たちとのつながりの強さや、職員さんと児童との信頼関係の強さなど、学園の持っている強みもいろいろと感じさせてもらいました。

今、時代の流れの中で施設に求められている役割は変わりつつあり、さらには建物の老朽化が進んでいることもあるので、今までとは違う学園の姿になっていくことも予想もされますが、そうした中でも、これまで培った学園の良さ、強みを活かして、子どもたちの成長を後押ししていただき続けることを学園にかかわった者として期待しています。

【滋賀県社会福祉協議会　副局長】

「夏祭り」を開催しました

2022 年 8 月 11 日

「信楽学園 ～夏祭り～」を開催しました。コロナウィルスの影響で 3 年連続地区のお祭り「納涼盆踊り会」が中止となったため、子どもたちに少しでも夏祭り気分を味あわせてあげたい！との職員の思いから始まりました。

模擬店には「焼きとうもろこし」「フランクフルト」「かき氷」といった祭りには欠かせない食べ物や、「牛串」「クリームソーダ」など子どもたちが喜びそうな食べ物を用意しました。またボウリングやダーツ、ストラックアウトといった遊びを用意し、最後にはみんなお楽しみビンゴ大会を行いました。

子どもたちは初め様子見をしていたのか体育館内に入れなかったり、食べ物を取りに来たりしませんでした。しかし時間が経つにつれ雰囲気に慣れてくると他児たちと交流し、好きなように模擬店を回っていました。模擬店はチケット制とし、すべてを制覇しようとする者、自分の好きなことだけを行う者に分かれました。「もうお腹いっぱい」と言えるほどたくさん食べたり、遊びで体を動かしたりと楽しむ様子が多く見られました。

「ビンゴ大会始めるよ」という掛け声には、外にいた子どもたちもすぐに体育館の中に入ってきて参加していました。職員からは「ビンゴ大会の力ってすごいな～」と感心するほどで、魔法の言葉なんだと実感しました。

コロナウイルスの影響で園外行事が中止となる中、子どもたちが楽しめる園内イベントが開催できてよかったと感じています。

納涼盆踊り会とは、神山地区と一緒に開催する夏祭りです。学園では「納涼祭」と言っています。もともとは学園の地蔵盆が始まりだったそうです。

学園からは「焼きそば」「かき氷」「ジュース」「ヨーヨーつり」を出店しています。園生も店番として、神山寮男子は「焼きそば」、朝日寮男子は「ヨーヨーつり」、山手寮女子は「かき氷」を手伝っていました。

店番は当番制で、地域の方と触れ合う機会もあり、当番ではない時に様々な模擬店に回るといった方法で楽しんでいました。また多くの卒園生も参加し、職員や在園生との交流が深められています。山手寮では浴衣を着て参加しており、なかなか着る機会がない浴衣にみんなワクワクし、髪型やメイクなどに気合いが入っていました。ビンゴ大会も開催され、毎年新任女性職員が浴衣を着て進行のサポートをするのが恒例です。（ちなみに進行は消防署の方）学園内のビンゴ景品とは大きく違い、電化製品などがあるため、子どもたちの気合も並々ならぬ入り具合でした。祭りの締めくくりは花火です。祭り会場から打ち上げ場所は 50m程しか離れていないため迫力満点です。早くコロナウイルスが終息し、納涼祭が開催できる日が待ち遠しいです。　【杉本 紗弓】

フレッシュさんに質問してみた

学園に来た時のイメージはどうでしたか?
働いてみて変わりましたか?

入職前のインターンシップで学園に来た時は、児童同士が仲良くて元気だなというのが第一印象でした。好きな物やアニメなどと、どこにでもいる高校生と変わらないなと。人間関係も困っていないように見えていたが、実は困っていて複雑になっているところもあるっていうのが、働いてみて印象が変わりました。

森口華帆（もりぐち かほ）

僕の学園に来た時の印象としては、養護施設のような施設。福祉型入所施設とは言いながら、職業訓練をしながらの養護施設という印象。児童の家庭環境や虐待などと家庭環境が複雑なところもあるため、存在意義がある全国的に珍しい施設やと思いますね。今も来た時と印象は変わらず、同じかな。

田中亮祐（たなか りょうすけ）

信楽学園で頑張りたいことは?

児童それぞれに対して、成長のきっかけになれる支援をしていきたいです。

なんでも話しやすい職員と思ってもらえるように日々の会話を大切にします。

岡村智美さんの

『リッツ』

我が家のなくてはならない存在の“リッツ”です。
もともとスヌーピーが大好きだったので、
犬を飼うなら“ビーグル犬”と思っていました。
前代のミル（ビーグル）が亡くなり、
飼うのをやめようと思っていたのですが、
居ない時の家族のなんとも言えない空気感。
4年前、我が家に大阪の保護犬カフェから
やってきました。今では、番犬・主人の散歩同行
・私のダイエット同行・娘のリフレッシュ等々、
大活躍してくれています。

職員の宝もの

坂本ゆかりさんの

『キーボード』

私の宝物・・・というより
思い出の物は、キーボード。
結婚した時に、夫が買ってくれたもので、
ギターを弾く夫と、昔はよく合わせて
弾いていたような気が・・・・。
悲しい時・寂しい時・楽しい時・恋しい時、
『音楽のちから』はいつも
私たちを勇気づけてくれます。
学園の子どもたちも
いつも音楽を聴いて、きっと
共感しながら元気づけられている
ことでしょう。

演劇発表会について

令和３年度も昨年度同様、コロナ渦の中での開催となりました。
９月からどんな役がしたいのか児童にアンケートを取り、希望を取り入れて眠れる森の美女をベースとした「魔法の国の眠り姫」を上演しました。１月から本格練習をスタートし、新しい練習方法として５分完走等の体力作りも取り入れました。
本番の観客は保護者のみとなりましたが、皆さんに見ていただいた事で児童からは「やり切った」「楽しかった」「できてよかった」との感想が聞かれました。
今年度は多くの皆さんに鑑賞して頂ける事を願い、今年の演劇を準備しているところです。
【芝田春香】

児童の感想文から

最初はなかなかセリフを覚えられなかった。

本番では自分はやり切ったと思います。声もしっかり出せたと思う。

練習のときは、声が出てなくって、職員さんにももっと声だして!て言われて悲しかったけど、頑張って声を出そって大きな声を出す練習をしました。

今年こそは演じたい役をやれて良かったしやり切った。

セリフが少し飛んでしまった場面もありましたがこうやって皆と楽しく悔いの無い思い出が出来て良かった。

演劇を通して良かった事ややり切れなかった想いなどとても良い経験になっています

キャスト紹介で〇〇を言おうとしたけど恥ずかしくてできなかった。

編集後記

令和４年４月25日に信楽学園は70周年を迎えました。
70周年という節目の年に、信楽学園の歴史を振り返り、今の子どもたちに合う支援の在り方を一度立ち止まってじっくりと考えていければと思うところです。

さて、今回号の表紙には、信楽学園の園章を取り入れたデザインにしました。みなさんは、信楽学園の園章がどのように出来たのかという経緯をご存知でしょうか。信楽学園増築のため地均していたところから、平安時代の壺が発掘されました。その壺を基に、池田太郎先生の息子さんが園章を作ったそうです。園章全体は壺の形を取り、中にアルファベットの「S」の文字が入っています。「S」は、滋賀県・信楽町・信楽学園の頭文字であること、またスピリッツの「S」としてデザインされたということです。学園で過ごしているなかでも、園章をあまり目にする機会はなく、入園式・卒園式の時ぐらいです。今回園章が出来た理由を知ることが出来、少し親近感を持てたような気もします。
【天羽結香】

信楽学園 ニューズレター Vol.15
滋賀県立 信楽学園

〒529-1812 滋賀県甲賀市信楽町神山４７０
☎0748-82-0051 / email : shigarakigakuen@glow.or.jp

編集・発行
社会福祉法人 グロー
glow ～生きることが光になる～
www.glow.or.jp
こちらからバックナンバーも読めます ▶